

心臓血管造影室が 3室体制に

—緊急カテーテル検査の対応が
さらにスムーズに—

循環器内科部長 稲垣 裕

2004年に現在の地で新病院として開院してから10年以上がたち、ここ2〜3年は虚血性心疾患、不整脈ともカテーテル治療件数が急激に増加していたため、今回シネアングリオ装置を更新しました。また、それにあわせ血管造影室をこれまでの1室から2室に増設し、心臓・脳血管センターの血管造影室と合わせ3室体制になったことから、緊急カテーテル検査の対応もさらにスムーズになると考えて



最新設備を活かし、これまで以上に心臓治療を充実させるよう努力していく所存です。



岡田医師によるカテーテルアブレーション治療

市立病院での不整脈治療

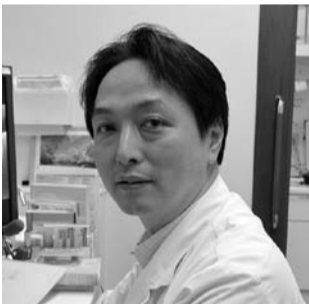
循環器内科医長 岡田寛之

はじめに

不整脈という疾患にはどのようなイメージをお持ちでしょうか。心臓の病気の中では狭心症や心筋梗塞、心不全といった病態に対しては怖い病気であるというイメージが強いかもしれませんが、不整脈に関してはどういった病気であるかはよくわからないという方も多いかもしれません。実は不整脈とは脈が不規則になる様々な病態の総称であり、その中には脈拍が遅くなるものあれば速くなるものもあり、特別な治療を必要としない軽症のものあれば、突然死の原因になるような重篤なものもあります。近年の医療技術の進歩により不整脈の詳細な病態が明らかになり、新たな治療方法も次々と開発されています。

不整脈の種類と症状

不整脈は、①徐脈性不整脈（脈が遅くなる不整脈）、②頻脈性不整脈（脈が速くなる不整脈）、③期外収縮（脈のタイミングがずれる不整脈）の3種類



循環器内科 岡田寛之医長

に大別されます。

徐脈性不整脈では脈が遅くなるために、脳をはじめとする臓器に十分な血液が供給されなくなり、めまいやふらつきといった症状が出現するようになります。重症化すると意識を失って倒れることや、安静時にも息切れが出現することもあります。頻脈性不整脈では動悸や息切れといった症状が出現することが多いですが、中には意識消失や血圧低下、さらには突然死といった重篤な病態を呈するものも存在します。期外収縮では頻発すると脈が飛ぶような感覚を自覚することがありますが、症状が感じられないこともあります。

不整脈の検査方法

心臓内には脈拍を作り出すための電気信号が流れており、心電図検査では皮膚に貼り付けた電極からこの電気信号を記録します。不整脈が出現すると通常とは異なる電気信号が記録されますので、不整脈が出現している最中に心電図記録が行えると、ある程度は不整脈の種類を見きわめることが可能になります。しかしながら通常の心電図記録はせいぜい10秒程度の記録時間しかないので、24時間にわたる心電図記録を行うホルター心電図検査や、数ヶ月間にわたる心電図記録が可能なイベントレコーダー、前胸部皮下に植え込んで最長3年間の心電図記録を

行うループ式心電計といった、より長期間の心電図記録が行える検査機器も使用することでより早く診断が可能になることもあります。これらの心電図検査でも診断に至らなかった場合や治療方針を決める上でさらに詳細な情報が必要な場合、心臓電気整理検査を行うことがあります。血管内から挿入したカテーテル（細い管）の先端を心臓の内部に留置し、カテーテル先端の電極から心臓内の電気信号を記録したり、心臓に電気刺激を加えて反応をみたりすることで、不整脈の原因部位を特定したりします。

不整脈の治療方法

一昔前までは不整脈の治療といえば薬物治療が中心でしたが、抗不整脈薬だけでは効果が不十分であったり、副作用で抗不整脈薬の使用が困難になることもしばしば見受けられます。そこで近年ではペースメーカーなどのデバイス治療や、カテーテルアブレーション治療といった、非薬物療法が盛んに行われるようになってきています。徐脈性不整脈ではペースメーカー植え込みを行って、脈拍が遅くなると器械から心臓に電気刺激が送られて人工的に脈拍を作り出します。頻脈性不整脈でもデバイス治療を行うことがあり、心室頻拍や心室細動といった重篤な不整脈に対し、植込み型除細動器というペースメーカーよりも大型の器械を体内に植え込むことにより、不整脈の自動的な検出・治療が可能になります。カテーテルアブレーション治療では、心臓内に挿入したカテー

草加市立病院での不整脈治療

不整脈を健康診断で指摘されたり、不整脈による症状を自覚された際には、まず循環器内科外来を受診していただき、診察や検査結果などにより治療方針を検討いたします。不整脈治療の中にも施行できる病院が限られてしまう治療法（植込み型除細動器、心臓再同期療法など）もありますが、その多くが当院で施行可能です。また最近では不整脈疾患の中でも特に罹患率が高い心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の需要が高まっています。当院では心房細動に対するカテーテルアブレーション治療の際に、従来の高周波通電で心筋を焼灼する方法に加え、冷気ガスで超低温にしたバルーンカテーテルで冷凍凝固を行う最新の治療方法も取り入れており、手術時間の短縮や患者さまの負担軽減といった部分に大きく貢献しています。

不整脈の検査・治療方法は今後もまだまだ発展・進化していくものと思われ、我々としても患者さまに最新かつ最善の治療が提供できるよう努力して参ります。